

防災を考える

—自分の身は自分で守る—

自助・共助・公助で防災活動

災害が発生した際、町では「公助」として、消防や警察、自衛隊などと連携し、食料や飲料水などの生活物資の整備、人命救助や復旧・復興を担っていきますが、災害時の被害を最小限に抑えるためには、曰く「自助」「共助」「公助」の考えのもと、みんなで防災活動に取り組むことが大切です。自分で行える備えや行動を把握し、自主防災組織の活動に積極的に参加するなど、災害に強い地域をつくりましょう。



POINT 1 もしもの時に備える

- 防災マップ等を活用し、あらかじめ家族で自宅等の危険性を確認し、避難場所・避難行動について話し合いましょう。
- 住宅の耐震化や家具の固定、非常時の持ち出し品や食料等の備蓄をしましょう。

▼外出時に身につけておきたいもの

- 連絡や避難・帰宅のための現金、万一の際に役立つ身元や連絡先を記したカード、持病がある人

非常時の持ち出し品

✓ 定期的に持ち出し品をチェックしましょう！

持ち出し品	
水・食料	飲料水(水筒)・乾パン・缶詰など調理せずに食べられるもの
生活用品	懐中電灯・ラジオ・電池・ローソク・ライター・ナイフ・缶切り・タオル・せつけん・毛布・寝袋など
衣類	セーター・ジャンパー・下着(1~2枚)・靴下・軍手など
貴重品	現金・預金通帳・印かん・証書類など
救急医薬品	消毒薬・傷薬・脱脂綿・包帯・ガーゼ・ばんそうこう・はさみ・家庭常備薬など
その他	防災ずきん・ヘルメット・厚手のゴム手袋など

- 携帯ラジオ、メモ帳、筆記用具など
- 出先で屋内に閉じ込められた際に慌てないように、LEDランプ付きキーホルダーや笛、口を覆うハンカチやペットボトルの水、チョコレートなど
- はかりつけの病院の診察券や病名・処方薬を書いたメモなど